

## 宗教界にも甚大な被害

### 兵庫県南部巨大地震襲う 次号詳報

#### 豊原本願寺派元総長も犠牲に

#### 生田神社本殿が倒壊

十七日午前五時四十六分に発生したM7.2の平成七年兵庫県南部地震は震源地に近い神戸、西宮の両市など都市部や淡路島に甚大な被害を出したが、この地震で同地域に多数ある浄土真宗本願寺派（松村了昌総長）の寺院が全壊、半壊など大きな被害が出た。また、この地震で昭和四十年から同六十年までの間に通算十二年、四回にわたり同派の総長を務めた豊原大潤氏（八六）＝西宮市西福寺前住職＝が自坊の庫裡が倒壊し、圧死した。その他の宗派の社寺などにも大きな被害が出ているもようだが、神戸市中央区の生田神社（加藤隆久宮司）では本殿の屋根が抜け落ちてほぼ全壊するなどの被害が出ている。なお、浄土宗、臨済宗等の被害寺院は雑記欄参照。

今回の地震の犠牲となった豊原元総長は、豊原大成本願寺派総務の実父。昭和二十一年から六十年まで連続十一期にわたり同派宗会議員を務めた。この間、昭和四十年十月、急逝した宮崎乗雄総長のあとを受けて総長に就任。以後、昭和六十年十二月に退任するまで通算十二年、四度にわたり総長に就任。

本派の長年の懸案であった本山北隣接地（新境内地）約七千坪の取得や本山阿弥陀堂大屋根修復、宗務総合庁舎の新築など数々の事業を手がけて大きな功績を残した。なお同氏の葬儀の日程等は未定。

この他にも神戸、西宮の両市等に多数存在する同派寺院には甚大な被害が出ているもよう。十七日午後までに宗務所が纏めた被害状況によると照善寺（芦屋市）、浄称寺（神戸市）、正應寺（同）、行願寺（同）、円徳寺（津名郡）、宣勝寺（同）、萬行寺（同）、浄光寺（洲本市）、浄専寺（尼崎市）、常源寺（西宮市）。

一方、神戸市中央区の中心に位置し市民らの信仰を集めている生田神社では本殿の屋根が抜け落ちてほぼ全壊の状況。

さらに、臨済宗系では、西宮市の海清寺、神戸市の祥福寺などにかかりの被害が出ているもようで、わが国の南画界を代表する画家、直原玉青氏が住職を務める黄檗宗国清寺でも開山堂が倒壊するなどしている。

大谷派では神戸市の明正寺が倒壊、浄土宗では、西宮市内にある貴田康住兵庫教区教区長の自坊・西蓮寺の本堂が全壊したとの連絡が本山に入っているという。また、この他にも各宗各派、各教団などにも大きな被害が出ているもようだが、その詳細については次号で詳報する。【写真は省略】